

6. 事業内容

今次年度（平成 27 年度）第 2 期事業内容：学校建設と各校の設備品の整備。

- ①ドンギネ村小学校建設（トウグニ郡）：3 教室及び教官室連結型 1 棟
- ②コニナ村小学校建設（トウグニ郡）：3 教室校舎 1 棟
- ③ゲンドゥ村小学校建設（トウグニ郡）：3 教室及び教官室連結型 1 棟
- ④モバ村小学校建設（トウグニ郡）：3 教室校舎 1 棟
- ⑤机（机と椅子連結型 2 人～3 人掛用）、教材保管庫、教員用机・椅子等の整備。
- ⑥学校維持のため、村代表による自主管理委員会と就学児童両親の会に対して必要な業務内容の指導を行ない、管理体制の定着を図る。
前年度建設した学校の管理体制確認も数回実施する。
- ⑦落成式の実施。

上記の①及び②は、初年度申請当初から事業内容に含まれていたものである。他方、③及び④のゲンドゥ村小学校とモバ村小学校建設については、平成 26 年当初の事業内容には含まれていなかったが、平成 26 年 12 月及び翌 27 年 2 月に日本人スタッフが現地視察を行った際、モバ村とゲンドゥ村から強い要請があったものである。初年度の事業申請当初は、モバ村小学校の低学年の教室は、壁が剥奪した古い土レンガ製の識字教室を使用していたが、その時点では更に 2～3 年は使用可能と考えられていた。しかし、その後、平成 26 年の雨期終了時期に屋根が吹き飛ばされる被害に遭い、村人が作物の茎などで補修して一時的にしのいでいたが、このような状況の教室は毎日の授業には危険が伴うだけでなく、強風に晒される日には、子供たちの健康への悪影響もあり、学校側、両親は非常に危惧しており、村、学校側及び父兄会から 3 教室の建設につき強い要請があった。また、ゲンドゥ村小学校からは、1993 年に村人が土レンガで建設した小学校がほぼ崩壊し、日々の学習が充分に出来ていないとして、安全な状況で学習ができる 3 教室と教官室の建設につき強い要請があったところ、本事業の申請に加えた次第である。

7. これまでの成果。課題・問題点、対応策等	①これまでの事業における成果(実施した事業内容とその具体的成果) 2015年6月(事業開始7ヶ月目)末には2校共に建設をほぼ終了している予定であったが、事業資金の入金手続きに時間を要したため、資材の購入が遅れ、事業開始が後方にずれ込み、2校ともに建設終了が予定より遅れる結果となった(同時期は、例年マリにおける輸送トラック数が少ないため、国内の資材が減少し、購入が難しい時期となっている)。最初の建設となるシンザニ村中学校については、平成27年5月末(事業開始後6ヶ月後)に90%が終了し、外装を残すだけとなっていたが、8月に建設が終了した。また、2校目のニヤマコロブグー村小学校については、平成27年6月に建設が開始され、6月中旬に日本人スタッフが視察した際には50%完成していたが、その後、9月に建設が完全に終了した。なお、視察の際、村人の協力が非常に大きいのが印象的であった。一方、学童用机やその他の備品は、既にその製作費の一部を支払い済みであったが、計画通りに全ての備品の製造を終了した。 ②これまでに事業と通じての課題・問題点 ・父兄会等への連絡は、スタッフが村を訪問する度に確実にこなしていたため、トラブルは全くなく事業を順調に進めることが出来た。両村においては、村人は男性、女性ともに非常に協力的であり、水汲み、食事の支度は女性たちが担当し、男性は建設技術者の指導のもと、グループにて、連日無料奉仕している。両村では、この学校建設に対する日本の援助に非常に感謝している。 今後の課題 ・種々都合により、建設開始が45日程度遅れたので、これを考慮し、学校備品の輸送を早めに実施する。 ・本件学校建設事業は日本政府による支援である事を村人へ説明しているものの、事業を実施している団体による支援という認識があるため、今後は日本政府による支援であるということを更に説明し、村人の意識を徹底させる。 ・外務省作成のシール(日本政府による支援であることを示すもの)を本事業にて製作した全ての備品(机や戸棚、その他)に貼りつける事を徹底する(学校への銘板も引き続き設置する)。 これまでは、同シールの貼り付けを村人に依頼すると、村人本人の自転車や家に貼り付けてしまうケースが多かったため、今後は当会スタッフが厳重に管理・確認する。 ③上記②のうち、雨期の終了が遅れ、学校用備品等の村への輸送が遅れた場合。 ・村への悪路が改修されない場合は、バマコ市から街道までは自動車運び、村から村人がロバ車で受け取りに来るように指示し開校に間に合わせる。
8. 期待される成果と成果を図る指標	①成果—風雨による教室の崩壊を防ぎ、安全な状況での授業が可能になる。 指標—ドンギネ小学校、ゲンドウ村小学校及びモバ村小学校では、学童たちは安全な教室で授業を受ける事が出来るようになる。 小学校への調査。 ②成果—小学校で複式授業が解消され、十分な授業が受けられるようになる。 指標—各学年で義務教育上決められた授業時間が確保される。 小学校への調査。

③成果—コナ村小学校、モバ村小学校では、すし詰め状況での授業が解消され、机上に十分にノートを広げて授業が可能になる。

指標—机一台に5・6人掛けであったのが解消され2・3人掛けとなる。

(通常学童用机は椅子と机が連結型である。) 小学校への調査。

④成果—コナ村小学校・モバ村小学校での隔年入学が解消される。

指標—教室数が現在の3教室から6教室になり、新一年生を受け入れる事が可能となる。 小学校への調査。

⑤成果—コナ村小学校・モバ村小学校への就学者が増加する。

指標—138名の児童が就学可能となり、上記両小学校の待機児童がゼロになる。 小学校への調査。